

**BS11**

平成30年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年1月10日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長 (氏名) 齋藤 知久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略局長 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第1四半期の業績(平成29年9月1日～平成29年11月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第1四半期	2,917	10.5	745	23.5	746	23.4	513	23.4
29年8月期第1四半期	2,640	7.0	603	△2.4	604	△2.3	416	△3.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第1四半期	28.85	28.85
29年8月期第1四半期	23.38	—

(注) 29年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第1四半期	17,088	15,694	91.8
29年8月期	17,255	15,496	89.8

(参考) 自己資本 30年8月期第1四半期 15,689百万円 29年8月期 15,496百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	18.00	18.00
30年8月期	—	—	—	—	—
30年8月期(予想)	—	0.00	—	19.00	19.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,100	12.8	1,130	△5.0	1,130	△5.1	780	△4.1	43.81
通期	12,750	10.2	2,230	0.1	2,235	0.1	1,540	1.4	86.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年8月期1Q	17,802,832株	29年8月期	17,802,832株
30年8月期1Q	134株	29年8月期	134株
30年8月期1Q	17,802,698株	29年8月期1Q	17,802,738株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況（3）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 今後の見通し	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善と各種政策の効果により、景気は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、海外経済の不確実性や東アジア等における地政学的リスクに対する警戒感の高まり等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の73.2%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で3.9%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で4.0%増と堅調に推移しております（「2016日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

平成29年10月の番組改編では、良質な番組制作による視聴世帯数の増加を目的として、タレントの島崎和歌子さんが司会を務め、豪華なゲスト歌手が視聴者のリクエストで昭和の名曲を歌い上げる『あなたが出会った昭和の名曲』を、視聴者の皆様のニーズに応え1時間番組から2時間番組へと放送時間を拡大し放送いたしました。また、歌舞伎俳優の尾上松也さんが著名な学者や歴史に造詣が深い作家や俳優と共に、今に残る史料だけでは見えてこない歴史ミステリーに迫る『尾上松也の謎解き歴史ミステリー』、昭和という激動の時代を駆け抜けたスター達を当時の貴重な映像とともにお届けする『あのスターにもう一度逢いたい』、タレントの森口博子さんを司会に、幅広い世代のゲストを迎え、珠玉のアニメソングをオリジナルアレンジでお届けする音楽番組『Anison Days』等の人気番組も継続して放送いたしました。

さらに『平成29年度 全日本学生柔道体重別選手権大会』、『日本女子ソフトボールリーグ』を放送、スポーツコンテンツのより一層の充実を図ると共に、『京都紅葉生中継2017』をKBS京都との共同製作で放送、ローカル局とのコラボレーションにも積極的に取り組みました。

また、アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』において、製作委員会へ出資した『宝石の国』、『十二大戦』、『妹さえいればいい。』、『干物妹！うまるちゃんR』等を放送したほか、約40タイトル以上のアニメ番組を放送いたしました。

費用面につきましては、引き続き番組関連費用等の効率的なコントロールに努めながら、番組宣伝のための施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を戦略的に実施したほか、首都圏主要駅への看板掲出など、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を実施いたしました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,917,131千円（前年同期比10.5%増加）となりました。営業利益は745,587千円（前年同期比23.5%増加）、経常利益は746,104千円（前年同期比23.4%増加）、四半期純利益は513,684千円（前年同期比23.4%増加）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ167,124千円減少し、17,088,506千円（前事業年度末比1.0%減少）となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が131,958千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ365,517千円減少し、1,393,901千円（前事業年度末比20.8%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が173,515千円、流動負債のその他が190,829千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ198,393千円増加し、15,694,605千円（前事業年度末比1.3%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が前事業年度の期末配当320,448千円の支払により減少したものの、四半期純利益513,684千円の計上によるものであります。

(3) 今後の見通し

平成30年8月期の業績予想につきましては、平成29年10月6日付の「平成29年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成29年8月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,031,328	8,044,653
受取手形及び売掛金	1,990,925	1,858,966
番組勘定	67,783	71,509
その他	162,739	149,310
貸倒引当金	△100	△100
流動資産合計	10,252,676	10,124,339
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,467,185	2,445,220
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	259,262	241,441
有形固定資産合計	6,761,205	6,721,418
無形固定資産	14,867	10,634
投資その他の資産	226,882	232,113
固定資産合計	7,002,954	6,964,167
資産合計	17,255,631	17,088,506
負債の部		
流動負債		
買掛金	412,056	408,773
未払法人税等	427,013	253,497
その他	854,996	664,167
流動負債合計	1,694,066	1,326,438
固定負債		
退職給付引当金	50,806	53,360
その他	14,546	14,103
固定負債合計	65,352	67,463
負債合計	1,759,419	1,393,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,198
資本剰余金	3,516,989	3,516,989
利益剰余金	7,796,163	7,989,399
自己株式	△139	△139
株主資本合計	15,496,211	15,689,447
新株予約権	—	5,157
純資産合計	15,496,211	15,694,605
負債純資産合計	17,255,631	17,088,506

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年9月1日 至平成29年11月30日)
売上高	2,640,244	2,917,131
売上原価	1,267,403	1,369,565
売上総利益	1,372,841	1,547,566
販売費及び一般管理費	769,149	801,978
営業利益	603,692	745,587
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	958	517
営業外収益合計	958	517
営業外費用		
支払利息	79	0
営業外費用合計	79	0
経常利益	604,571	746,104
税引前四半期純利益	604,571	746,104
法人税、住民税及び事業税	173,056	232,460
法人税等調整額	15,342	△40
法人税等合計	188,399	232,420
四半期純利益	416,172	513,684

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。